

東北地方太平洋沿岸の沿岸波浪計・潮位計による津波の観測結果について

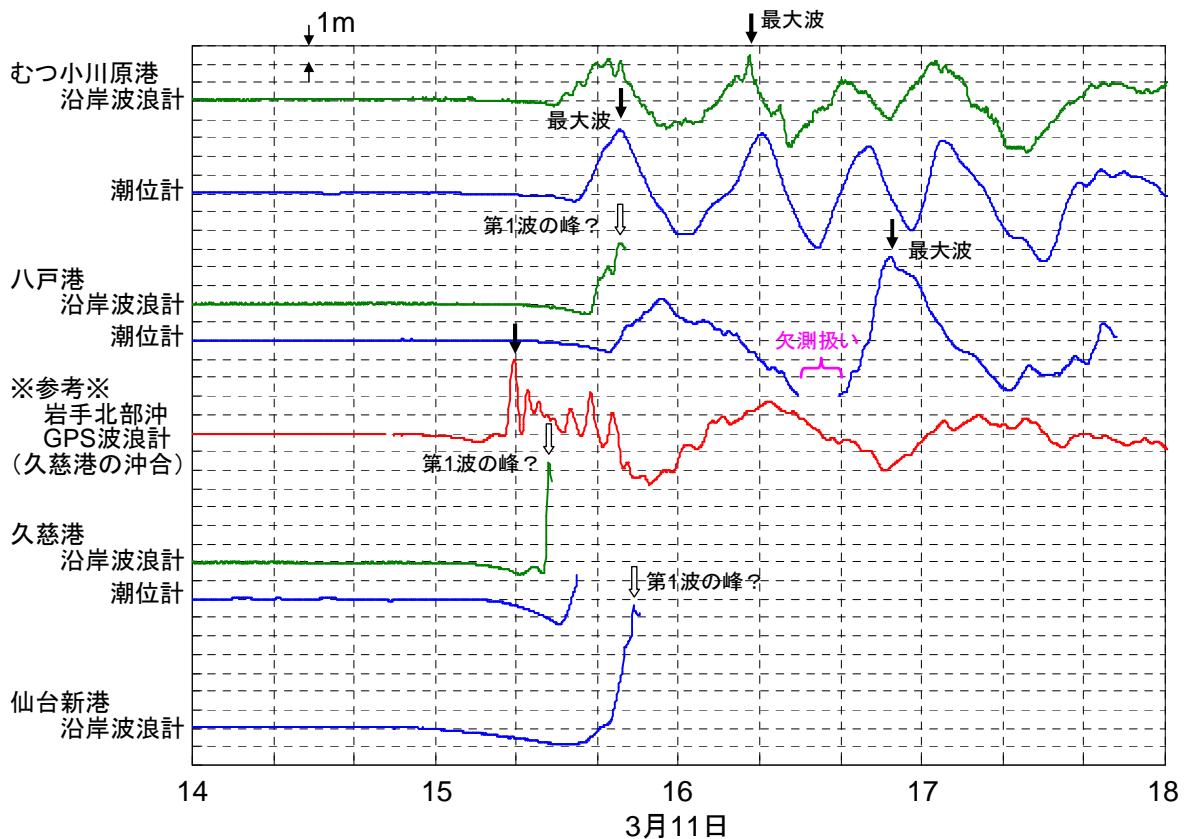
1. はじめに

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の津波について、東北地方太平洋沿岸の沿岸波浪計（水深20～50mの海底に設置）と潮位計（岸壁や護岸のそばに設置）で観測されたデータを解析しました。その結果を報告いたします。対象地点は、むつ小川原港、八戸港、久慈港については沿岸波浪計と潮位計の両方、仙台新港については沿岸波浪計のみです。

2. 解析結果

下の図に各地点の津波波形を示します。各地点の特徴は以下の通りです。

- ①むつ小川原港：沿岸波浪計（設置水深43.8m）では第2波で約2.5m、潮位計では第1波で約3.4mの最大波を観測しました。
- ②八戸港：沿岸波浪計（設置水深27.7m）では津波を第1波の途中まで捉えました（記録された中での最高は約3.3m）。潮位計では第3波の途中まで捉えました（記録された中での最高は第2波の約4.5m）。
- ③久慈港：沿岸波浪計（設置水深49.5m）では津波の第1波の途中まで捉えました（記録された中での最高は約5.4m）。潮位計は第1波で潮位が急上昇する途中で途切れました。GPS波浪計（設置水深125m）、沿岸波浪計、潮位計の順に津波が来襲したことは確認できます。
- ④仙台新港：沿岸波浪計（設置水深21.3m）では津波の第1波の途中まで捉えました（記録された中の最高は約6.6m）。



(4月28日修正事項) 八戸港潮位計の一部（上図に桃色で表示）を欠測扱いとします。